essais こころみ　2023年5月

2023年5月1日（月）　晴れ

気持ちよく晴れている。昨日の雨がよかった、空気が澄んで、空の青さが鮮やかで、陽ざしが晴々しい。知人が今日開業する、絶好の門出。

ー　薫風五月　ー

大型連休あい間の平日。電車はいつもどおりの混み具合。働き方もかなり柔軟になっているから、休みをずらす人も多いはず。いやいや、休みどころじゃないという人の方が多いか。

社会に出て最初の会社は夏季・冬季ともに一定期間の中で一定日数を交替でとる休暇制度になっていた。考えてみれば、この時に、〈人が休んでいる時に働き、働いている時に休む〉の芽が植えられたのかもしれない、いま気づいたけど。

人とずらして休んでも、遠出することはあまりなかった。一人で京都散歩したり、家で本を読んだり。今もはっきり記憶していること一つ。

夏季休暇を8月の終わりにとり、残暑厳しい昼下がりに、籐のパイプベッドに寝そべって本を読んでいて、小一時間ほどして左の二の腕に違和感。見ると、棒状に赤く変色していた、金属製パイプに負けて。

3日からの連休は、前回の「憂鬱でなければ」じゃないけど、ちょっと込み入ったタスクを2つ、やることにした。しっかり時間をとってやらないといけないので、〈人の休んでいる時〉が好都合。

仕事の人も、休みの人も、薫風五月、よい時間を。

2023年5月1日（月）午後に本日開業のお店「アローラ」さんへ
https://www.instagram.com/hardpain_cafe_aurora/
すぐそばに森林公園があって、薫風五月のよい散歩にもなりました。

2023年5月3日（水） 晴れ

今日も朝からよく晴れて気持ちがいい。どうやら5日にかけても天気は良さそうで、遊びだけでなく衣替えや大掃除などの家事にも格好の日和。日頃後回しにしていることをするのもよい大型連休。

－ 森林の中を －

今日のessaisでもちょっと話したことだけど、森林の中を散歩するのと同じぐらい、人の対話も清涼感、仕合せ感につつまれる。そもそも〈話せる〉人がいるということが、仕合せ。

ある話題から互いの思考が遊歩し、いま居合わせている場をはなれて、どこか別の空間にいたような気がする、後になって思い返すと。たぶん、つかの間、浮き世を離れて、ともに〈われにかえった〉のだと思う。

もちろんこの時季は特に、実際の自然に大いにふれ、森林を歩きたい。森林浴の一番いい季節。草の匂いに英気を養われる。先日泉北へ行って、訪ねる先の道に迷い、近くの森林公園で途方に暮れることになったけど、これがよかった。

木洩れ日、薫風、枝葉のさざ音。この枝葉のすり合う音に引き込まれる。遠い世界、あるいは原始にもどしてくれる。そんな空気感につつまれる。迷いこんだおかげで、思いがけず良い散歩ができた

これに関連して引用したいことを確認したくて筆写ブックをくっていたら、別の記録が目にとまった。在野の哲学者「長谷川宏」の言葉。前述のことを言ってくれているような…。

「自然とはあるがままにそこにあるもの。失敗や成功、勝利や敗北とは無縁の世界。森の中にわけいることは、そういう世界に還っていくことであり、自分の体と心を自然らしい自然でもって、満たすこころみのように

2023年5月7日（日）雨　　この時季は雨ほど出たくなる、近所の公園、新録がさらに瑞々しく

2023年5月8日（月）　曇→晴

昨日日曜はよく降った。天気に恵まれた大型連休、終わりはしっとり。さて、世の中これから新年度本稼働。

－ 察知、感知、気持ち －

昨夜おもわず見てしまった、WBCのふりかえり番組。監督や選手たちの後日談を聞けて、たのしかった。勝敗をわけたのは、一見ささいなこと、微妙なことだったというのもわかった。例えば、代打をやめた話。

代打を告げにいったコーチに電話で監督が予定選手の準備具合を尋ねたとき、いつもなら、パッとOKの返事するコーチが、微妙に〈間〉があり、声も控えめのOKに、監督が何かを読みとった。そこで代打はやめて、そのまま村上選手でいって、ヒット、メキシコ戦さよなら勝ち。

これについて監督も言っていた、こういうちょっとしたことを察知・感知することが大事なんだと。まったく同感、事が進展するか停滞するかの差になり、勝敗や成否もわけることになる。

AIの実用化がこれから一気に進むけど、人間ならではのこの察知・感知の差は、AIを有効活用する側になるか、AIに都合よく使われる側になるかの違いにもなるような…。

監督が手書きの手紙を選手やスタッフ一人ひとりに送ったというのも共感。筆の墨字があまり達筆でないのが、かえって響く。セミナーの受講者に個別にメッセージを書くことがある。毛筆ペンを使うが、これがけっこう味わいがある、字はあまりうまくなくても。

それよりなにより、気持ち。手紙やメッセージを書こうとする気持ち。まずはそれを伝えるために書く手紙。

2023年5月12日（金） 晴

今日もよく晴れている。カラッとしてさわやか。新録がとにかく目に清々しい。今のうちにたっぷり見て、瑞々しい感覚を覚ましておこう。

ー 3世代モデル ー

公共政策、科学哲学が専門の研究者「広井良典」が著書で、『人間の3世代モデル』をとなえ、これに関連して、AI・人工知能の父といわれた「マーヴィン・ミンスキー」の言葉を紹介していた。

「全哺乳類の中で幼児期にひとりで生き延びていく能力が一番未熟なのが人間である。私たち人間には生きていくための世話をし、また、貴重な生き抜くための助言してくれる存在として、親のみならず、祖父母までもが必要になってくるのである」

先月20日からessaisで音読している「中井久夫」の本。音読中の「ある観察」の次の章は「個人史」が続く。それを読み進めるうちに、上記の「3世代モデル」、「祖父母までもが必要」を思い出した。

昨年8月に再発見した「中井久夫」、あまりに超人的すぎて、なんとなく別格扱いしていたけど、どの家にも通じるストーリーがあった。もちろん質はまったく違うけど。

追ってたくさんの人々を救うことになる「中井久夫」の、もって生まれた特別な才の原石を、善または美へと働くように導いたのは〈祖父〉だったよう。著述からも祖父への深い想い、信頼が感じられる。

そうわかってみると、親しみを感じる。近寄りがたい、超人、異才というのとはちがって、質的には足元にも及ばないけど、どの家庭、家系にも通じる環境が目に浮かんで、人間味を感じる。

個人的にはリアルな祖父母の存在を知らないから、特にそう感じるのかもしれない。そういえば、知人の一人がいつか何げなく言ったことがある。「自分が今こう生きているのは、上の世代に依るところ大きい」。

ごくごく当たり前な感じが言ったものだから、“…そうなんだ…”と目を瞠った。考えてみればそうだけど、それをごく普通に意識していることに軽い衝撃をうけた。この知人も祖父への想いの深い人だった。

2023年5月15日（月） 曇→晴

雨あがり、これから徐々に晴れる予報。このところひんやりしていたけど、明後日は29℃まで上がるそうな。エルニーニョ現象発生は確実のようで、梅雨から夏にかけての気象が心配になってきた。

－ ムクドリ －

この時季、ムクドリがよく鳴く。他の鳥にはその時々の季節をただ感じるだけなのに、ムクドリにはちょっと気持ちがざわつく。

1995年3月に事務所をもってまだ2ヶ月、ひょっとして自分のやろうとしていることは、人にあまり理解されないものなのだろうかと感じ始めて

当時住んでいたのは箕面船場の方。最寄駅は千里中央、自転車でも15分はかかった。駅から遠いけど緑には恵まれていた。自宅からしばらくは結構の散歩道ともなる。

“ひょっとして…”と感じ始めると能天気にはいられない。事務所をもつ前に〈混沌〉は想定はしてたものの、その入口にさしかかった感覚が不安感を誘う。

もともと歩いている人の少ない地域、自転車で、時には徒歩で駅へむかう。その間は一人の世界。“ひょっとして…”がずっと付きまとい、あれやこれや考えるバックグランドに、ムクドリの少しかん高い鳴き声。

当時はムクドリという名前を知らなかった。たまたま出会った人に教えてもらった。妹にさそわれ一緒にいった経ヶ岬で、鳥の観察をしている人がいたので尋ねたのだった。

そういえば、名刺をもらい、しばらくメールのやりとりをしていたが、あるとき途切れた。書くには及ばないけど、理由はなんとなく想像がついた。

何もなければ、ただの鳴き声。あったから、こんな小さな物語がついてまわる。過ぎれみれば、すべて物語。

2023年5月18日（木） 晴→曇り

昨日は暑かった、大阪30℃、前橋35℃。5月中旬でこれはカラダにくる。20年前ぐらいまではあまり意識していなかったけど、気象の変化と体の調子の変化を気にかけるようにしている。たまに油断すると覿面、

－ 大決断の「間」 －

退職や転職、さらに独立・起業にいたっては、人生の大決断。仕事以外の個人的な問題によって、現状から逃れる、絶つという決断もまた人生の大きな選択。両方が一体の場合も多い。

そうして自ら進んでつくった新しい状況、生活。ただしすぐには目に見えるような成果やよろこびはないし、何より未だその新しい状況に慣れていないから、時には〈揺りもどし〉がある。

“やっぱり、元のままがよかったかも…”、なんて思ったりする。先は見通せないので不安感も増す。自分の決断が急場しのぎ、短絡的なもののようにさえ思えてくる。そういう人もいる。

そこでちょっと喝を入れる。「ご自身の決断を大切にしないとダメですよ。自分を信頼しないといけません」。未来を新しく拓いたのに、慣れていないことに気づかず、それこそ短絡的にまた判断してしまっては、元も

3ヶ月、半年、一年、三年…と過ぎていけば、新しい状況に彩りがでてきて、すっかり普通の環境になる。

「ある文化人が、同じような状況が続いているのは、滞っていることだと言っていますよ」と、また「中井正一」の言葉を紹介することになる。2010年に読んだ『美学入門』、これまで何度引用したかしら。

「間」は時間にも空間にも用いる。これはまったく日本的なもの、英語に訳しにくい言葉。お能の太鼓のように、それまでの一切の時間を切って捨てたような感じ。

前の時間がそのまま流れているのは滞っているのである。切って、捨てて、脱落して、新しく生まれるからこそ生きているのである。「間」というのは、この生きていることを確かめる時間の区切り、切断、響きなのであ

2023年5月22日（月）

神戸市北区の道場、4年ぶりに旧知の友の貸農園へ
大阪駅から区間快速で約40分、こんな風景に出会えます。
この先も手前も新興住宅地、この一画だけ開発を免れているそう
地域の人たちの働きかけでそういう決まりなっているとか。

大きな樹の下のデッキで広がる景色を眺めながら、ゆったりとランチ。

デッキから上を見上げれば、目にやさしい木の葉

2023年5月23日（火） 曇→晴

朝いちばんは雨、お昼前から晴れる予報。気温は23℃ぐらいらしいから、暑くなくていい。昨日は伊豆で震度5弱の地震があった。ちょっと気

－ 温泉 －

このところ妹がさかんに、「温泉にいきたい、ゆっくりしたい」を言う。行動も自由になったし、みなそこかしこに旅行しているし、近場でもいいから旅行気分を味わいたいらしい。「いく？ いく？」と何度も聞くので、「いこう」と答えた。梅雨に入るまでには行くとしよう。

「一生に一度、『ルーブル』だけは行きたい」と若い頃に言ったくらいで、必ずここへ行きたいとか、必ずこれはほしいとか、そういう欲求は低い方。『ルーブル』行きは1989年に果たしたので、よし。

旅の地も、モノも、よほどのことがない限り、ずっとその場にあり続け、生産され続けるから、自分が行ってもいかなくても、買っても買わなくても、そのままあり続ける。でも人間は違う。

今もし遠出の旅行することにしたなら、それは誰か会いたい人に会うためだろうと思う。そのために時間と労力とおカネをつかって、行く。人によっては何十年ぶり、あるいは数年ぶり。出会ってからの年数も40年だったり、数年だったり。

会って、話して、旧交をものがたり、温め合う。これは温泉効果にも等し

2023年5月26日（金）　　中之島公会堂であった会に参加、なんとも素敵な場

2023年5月27日（土） 曇

雲の多い晴れ。ひょっとすると来週後半に梅雨入り宣言、今日明日の晴れを大事に使ってほしいと予報士。遅かれ早かれやってくる梅雨、まずは気持ちをそなえるとしよう。

― コミュニケーション ―

「コミュニケーションをローテクと捉えていいのでしょうか？」。20数年前の診断士更新研修で講師陣に質問した。コンサルの事例紹介で、問題解決の鍵になったのが、高度なメソッドでも何でもなく、〈ローテク〉なコミュニケーションだったというから、そんな認識でいいのかと。

『コミュニケーションは能力の問題ではなく、意欲の問題』（平田オリザ）、まったく同感。ただやっかいなのは、「意欲が湧かない」と元も子もない。意欲自体をうまく育ててこないと、コミュニケーション・ギャップはそもそも付きものだから、その先へ進まない。

『世界価値観調査』で、「自分は冒険やリスクを避ける人」という質問に一番イエスと答えた割合の多いのが日本。結果は十数年変わっていないらしい。「対人関係においても、“リスク回避傾向”が顕著」と『信頼の構造』の著者。

「コミュニケーション」についてはずっと問題意識をもっている。1991年に独立して初めて、自分と他者とのスタイルの違いを意識することになった。個人的には日本社会に一つ開眼したというほどのものだった。“そりゃ、ストレスもたまるなぁ”と、単純な感想も持った。

一人として同じ人はいないのだから、ギャップはつきもの。ギャップだらけでも許容、尊重できるところも必ずある。無ければ、あえて接点をもつ必要もない。たぶんそれがむずかしいという人が多いかもしれない。

そういえば思い出す。はるか昔、おたがいに転職活動をしていた友人がある会社に面接にいって、今ではご法度な質問をされ、態度をとられた。聞いているこちらが憤慨、「そんな会社、こちらから願いさげ！」と言ったら、「そうはいかないのよね、世間的にはいい会社だから」。

2023年5月30日（火） 雨

昨日梅雨入りした10年ぶりの早さとか。早く入って早く明けるならいいけど、長引くのはちょっと…。とにかく大きな災害にならないように願う

― （続）コミュニケーション ―

昨夕ニュースで首相の秘書官更迭の速報がはいった。たぶん大半の人がそりゃそうでしょ、と感じたはず。今回のニュースで当のご本人を初めて見たが、ま、そういう風に育ててしまったんだなと感じた。

この更迭についての首相コメントもまた言葉だけが単なる音として流れているような話し方だった。官房長官はさらにその度合いがつよいように感じているが、他の人はどうなんだろう。

彼らはわざとそうしているのかしら、予防線を張って。それとも、そもそも問題意識はないのかしら。話し方やプレゼンのコンサルをつける経営者も少なくないが、前回にも書いた、「意欲」自体がないのかしら。

『発声と身体のレッスン』を書いた演出家が、本の冒頭で日本の政治家の話し方に苦言を呈していた。着るものや外見には気を使うのに、発声・話し方に無頓着な人が多いと。

この本の中で、「正しい発声」とは、「自分の感情やイメージがちゃんとと表現できる声」と定義して、けっして響いて、よく通る声のことではないと書いていた。

「情がない」という言葉があるけど、情がないように感じられる発声・話し方は、ずっとは聞いていられない。いつかラジオを聴いていてそういうことがあった。チャンネルを変えた。

そういえば、自己陶酔のようなハイテンションの物言いをする政治家も最近問題になったが、これもまた、その様子と見るのも聞くのも、精神が受けつけない。視覚、聴覚をふさぎたくなる。

「体は個性」と言った舞踏家がいた。ということは声も個性といえるし、話し方もまたしかり。個性を伸ばすという言葉があるように、今の話し方が個性のマックスではない。

相手が〈聴く耳をもつ〉、そんな話し方の個性を伸ばす。そういう意識をは、わたしたちは持っておきたいもの。